字幕協力：NPO法人文字情報支援ひこばえ
主　催：阿南市　共催：阿南市文化会館
運営協力：NPO法人夢ホール市民協議会夢つくりあなん

阿波人形浄瑠璃芝居公演

【中村園太夫座公演】

演目

寿三人三番叟　赤松座

阿波遍路恋唄　中村園太夫座

傾城阿波の鳴門　順礼歌の段
新野中学校

一谷嫩軍記　熊谷陣屋の段
中村園太夫座・赤松座

令和5年
1.29㊐

13:00 開演 / 12:30開場

阿南市文化会館夢ホール
阿南市富岡町西池田135-1 TEL.0884-21-0808

入場料　200円
小中高生無料
※未就学児は入場できません

チケット　平惣書店（羽ノ浦店・センター店）
コスモホール・阿南市文化会館

【お問合せ】阿南市文化振興課 TEL0884-22-1798

『一谷嫩軍記』熊谷次郎直実 藤の方　撮影：福井純子

阿波人形浄瑠璃芝居公演

【中村園太夫座公演】

阿波人形浄瑠璃は平成 11 年、国の重要民俗無形文化財に指定されました。
「中村園太夫座」は阿南市新野町中分地区に江戸末期より伝わり親しまれてきました。
伝承の技芸は新野中学校民芸部など、若い人たちにも受け継がれています。
郷土の誇り「阿波人形浄瑠璃」の舞台を夢ホールでお楽しみください。

ことぶきさんにんさんばんそう
寿三人三番叟

赤松座

天下泰平五穀豊穣を祈願して上演される。躍動的な足拍子や鈴を振っての軽快な舞、軽妙な掛け合いが楽しい。本来二人で演じるが、赤松座は3人の三番叟が登場する。

あわへんろこいうた
阿波遍路恋唄

中村園太夫座
三味線：鶴澤友輔
太　夫：竹内雅代・新田光香
原　案：陶久敏郎
脚本・作曲：鶴沢友輔

巡礼者・お梅が四国遍路の半ばで行き倒れになっているところを偶然見つけた麓村の竹一とお松。二人に介抱されたお梅はお礼を申し出ますが、彼らは礼には及ばぬと断り、お遍路やお接待、それから同行二人の意味を語り始めます。

けいせいあわのなると　じゅんれいうたのだん
傾城阿波の鳴門 順礼歌の段

新野中学校
三味線：民芸部2人
太　夫：民芸部2人

盗まれた主君の刀を詮議するために、阿波の十郎兵衛・お弓の夫婦は、大阪玉造に住んでいました。そこへ西国巡礼姿のお鶴が現れます。父母に会いたい一心で困難な旅を続けてきたお鶴のいじらしさと、母親であると名乗ることのできないお弓の、引き裂かれるような胸の内が観る者の涙を誘います。

いちのたにふたばぐんき　くまがいじんやのだん
一谷嫩軍記 熊谷陣屋の段

中村園太夫座・赤松座
三味線：鶴澤友輔
太　夫：竹本友廣

舞台は一の谷合戦後の須磨の浦、熊谷直実の陣屋。熊谷の妻相模（小次郎の母）と藤の方（平敦盛の母）がお互いの子の身の上を案じ、陣屋を訪ねてきます。熊谷は相模に女の身で陣中へ来ることならぬと冷たいそぶりを見せますが、敦盛を打ち取ったと語ります。その時、襖の陰から藤の方が「我が子の敵熊谷やらぬ」と熊谷に切りかかります。熊谷は藤の方を丁寧にさえぎり戦場での健気な敦盛最後の様子を物語ります。

中村園太夫座

1805年（文化2年）から活動を続け、現存する人形座としては日本で一番古いと言われています。絵本太功記や合邦などの古典的外題を上演して伝統文化の保存・継承に努めてきましたが、近年は「越後母恋情話」、「天照って阿南生まれじょ」、「阿波遍路恋唄」などの新作浄瑠璃を発表し、阿波人形浄瑠璃の可能性を広げています。

新野中学校民芸部

私たちは、平成4年度から中村園太夫座の方々にご指導をいただきながら活動を続けています。多くの部員が他の部活動と兼ねているため1週間に1回の練習ですが、今年は太夫と三味線にも挑戦し、みんなで協力して頑張っています。徳島の伝統文化を大切に受け継ぎ、活動を通して地域の方々とつながっていけるよう、一生懸命頑張りますので応援よろしくお願いします。

赤松座

美波町赤松地区で明治初期まで続いていた人形浄瑠璃座「赤松座」が約100年ぶりに復活したのは、平成26（2016）年10月に赤松神社の秋祭りに「寿三人三番叟」を奉納してからのことです。秋まつりには吹筒花火と赤松座の伝統芸能が楽しめますので、皆さんお越しください。

●写真撮影の方は、液晶画面が他のお客様の迷惑にならないよう、客席後方からお願いいたします。
●コロナ感染症予防対策を講じて開催します。検温、手指消毒、マスク着用、換気等についてご協力をお願いいたします。また状況により演目を変更する場合があります。ご了承ください。